

平成31年度

第12回 児童生徒の平和に関する図画・作文コンクール

今年度の応募点数は、小学校 1453点、中学校 7 点の応募点数でした。

審査は、次のことを基準に進めていきました。

- 1、コンクールの趣旨「戦争と平和について考えると共に、平和を尊ぶ心を育む機会とする」
- 2、内容として「沖縄戦について直接体験者から聞いたり、映画を見たり、本などを読んで感じたことを自由に描く」。小学校低・中学年においては「身近な生活の中での平和や共生、人権教育の視点による作品も含める」
- 3、上記1・2の趣旨と内容を表現するための形や色、画面構成などがそれぞれの校種や学年の発達段階に応じた作品になっているかなど。

◎審査結果の総評

応募した児童生徒の皆さんがコンクールの趣旨等をよく理解し、各学年とも発達段階にふさわしい表現をした素晴らしい作品がたくさんありました。

そして今回も力作が揃いました、低学年の作品では笑顔の後ろには花々が丁寧に描き込まれており、色彩や構図のバランスも伝えたいことを表すためによく考えられている作品や、表現力豊かな作品が多く見られました。高学年の作品では人物表現のレベルが高く、周りの情景描写が的を得ており、色彩の美しい作品や、構成の巧みな作品が多くありました。またどの作品もやさしさに溢れ、自分なりの表現方法で描いてありました。見ているだけで楽しくなるような、嬉しくなるような感情が湧いてきたと共に、身近な生活の中での平和や共生、人権教育の視点による作品で画面構成なども良かったです。

課題としては、今年も画面の構成が同じなど画一的な作品がありました。またテーマがはっきりしておらず、何を描きたいか伝わりにくい作品がありました。教師は児童が表現する前にイメージがふくらむような援助や対話する場面を大切に、何をどう描きたいかを引き出して欲しいと思います。